

守・破・離（しゅ・は・り）

約30数年前の高校時代に聞いた講演を、今も時折思い返すことがあります。その講演は、電気工学分野の独創的研究で著名であった西澤潤一先生（当時東北大学教授）が、平成元年に文化勲章親授式に臨まれる前々日くらいに、私が当時通っていた高校に来校されて行われたもので、その講演の題目が「守・破・離」でした。

年数が経っている故、自分が間違っている部分があるかもしれませんが、先生のお話を講演録も見ながら要約すると次の通りでした。守とは従来知識や標準技術を学び基本を固める段階であり、その段階を経ると次に破という従来技術の問題点や改良点を認識して打開する段階が訪れる。そこを経るとさらに新たな気づきを得て独自独創の技術に至る離の段階がくる。それが研究における自然かつ基本的な順番で、守の段階を飛ばして破や離はできないので、まずは守の段階を大事にして基本と原理原則を身に染み込ませ、取り組む課題ごとに守破離のサイクルを回して結果を出していくのだよ、といったお話で、引き込まれました。破や離は決して特殊な能力ではなく、守の段階を経れば君たちにも到来するのでそれを掴め、というメッセージを私達に向けておっしゃられていたとも理解しています。当時は、研究活動についても全くの無知でしたが、多分これは物事全般に通じる身近で本質的な教訓なのだろうと感じ、守の段階の努力ならば自分でもできるのでまずそこはやっていこう、と何か割り切れた安心した気持ちになれたことを思い出します。

今、研究者として多少の経験を積み、守破離の教訓は実体感覚として理解できます。改良的な技術開発は破、革新的独創的な技術開発は離に相当し、破や離を成果として求められるのが研究の世界ですが、それらを生み出す土台は我々土木業界で言えば現場における標準技術や基本技術を身につけ実行する守の活動であることは常に忘れずにおこうと思っています。

（寒地道路保全チーム上席研究員 丸山 記美雄）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。